

【ねがいはしては】

平成29年1月25日

KYOWA SCHOOL

第315号

「つながり」

雑誌 PHP 2月号に興味深い作品が掲載されていました。

筆者（88歳）が小学5年生当時、図画の時間での発言が、その後の筆者に大きな影響を与えるという内容のもので

す。筆者は発言しました。ある児童の図画に対し、「センセイ、この絵は間違いです。庭が真っ赤に塗ってあります。庭の土は茶色に決まっています。赤い土なんてありません。」

実はこの絵を書いた児童の作品は、夕焼けで空が真っ赤だったのを受け、庭の土も真っ赤にしたものだったのです。先生が作者に尋ねたのを受けて、そのように答えました。さらに、「たとえば夜だったらどうだろうか？ 黒っぽい灰色の土に見えるかもしれない。」その場がしんと静かになったそうです。

筆者は当時、副級長にもなっていたくらい中心的存在だったそうで、相当のショックを受け、その日以来消極的な性格になったということです。その後、2学期になり、先生から呼ばれ、秋に全校の写生大会があるので、思うままに描いてごらんと促されました。もちろん赤い庭の件があったので、今でいう「リベンジ」ですね。筆者は丁寧に丹念に描いたそうです。そして先生から「イチョウをよく見て描いている。特に葉っぱが面白い」とほめてもらったそうです。

その絵は努力賞に選ばれ、展覧会場に飾られたそうです。筆者は褒められたことで、徐々に自信が戻っていったそうです。

30年後、同級会の折、そのことを当時の先生に聞いてみたそうです。「はっきり覚えているよ」と答えてくれたそうです。

実に70年以上もの時を経て、感動が培われてきたことに深く感銘いたしました。

人は誰だって間違える、ミスをする。それは積極的な心の動きがあってこそのこと。当然打ちのめされる。しかしそれを傍らにいる人がしっかりと見つめ、その心の動きを自分のことのように感じ入ってくれている。その現れが、「写生大会に描いてごらん」の一言につながり、その少年が、またまた元通りの快活な元気な少年に戻ってゆく。

この少年と先生の間には、当然人と人とのつながりです。学校へ行っているときの傍らにいる方の存在は、先生であったり、友だちであったり。では、ご家庭での人と人のつながりは、当然お母さんやお父さん、きょうだいになります。その中で発せられる様々な発言や行動、当然学校以上に間違いや失敗が起こっていると思います。

その時のお子さんの心の中を冷静沈着に眺め、我が事のように心に刻み、そして「生きてやるぞ」という「ひと」らしい心に戻してあげる策を講じているのでしょうか。

私は猛烈に先ほどの「先生」に逢いたいと思っています。どんな先生なのだろう。30年もの歳月が過ぎても、その場面をはっきりと覚えていらっしゃる深い思いやりと優しさを持った先生。

私も今の仕事に従事しながら、常に自分を戒めていることのひとつに、「感情的は良くないよ」というのがあります。子どもたちと触れ合って40年経った今でも、基本はそこにあります。週が始まり、月・火・水と、日が進むにつれてまってくるストレスや疲れ、それが分かっている、イライラ感を封じることがなかなか出来ない自分。

同様の感情をお持ちになっているお母様やお父様がいらっしゃると思います。

何でも話せる家族、何でも相談できる家族。そんな家族が毎日をきっと平々凡々と過ごせるのかもしれませんが。「今日ね、会社の〇〇さんに叱られちゃってね。ちょっとへこんでるんだよね。」なんてお子さんに愚痴るのも家族のしあわせのテクニックのひとつかもしれません。

「じつはぼくもね、同じクラスの〇〇くんこんなこといわれちゃってさ、げんきないんだ。」なんて、返事が返ってくるかもしれません。

よく、ガマンガマンと頑張ってしまう方がいらっしゃるかもしれませんが、ガマンの質の違いに気づき、ガマンしなくていい場面、ガマンする場面を学習し直す必要があるのかもしれませんが。

積極的な子、はきはきとした子、元気な子、頑張る子、どれもこれも子どもらしさを表す当たり前の表現です。しかし今の世の中、「失敗したらどうしよう、間違えたらどうしよう」と、なかなか自ら動こうとしないお子さんが多数見受けられます。当然勉強の世界です。ゲームは別格みたいですけどね。

お子さんの傍らにいる方が、お子さんのこころの隅々まで感じ入る努力をする必要があると思います。

「先ほどの先生、先生の心根をしっかりと引き継いだ教え子さんたちが、さらに多くの教え子さんたちを育てていけるよう心より願っています。」

私もまだまだ未熟だなーと深く感じ入る作品でした。

さてと子どもたち、今日もたっくさーんまちがえよー！ ありがとね。